

本文

【白文】

趙惠文王時、得_二楚和氏璧_一。秦昭王聞_レ之、使_三人遺_二趙王書_一、願_二以_二十五城_一請_レ易_レ璧。

①於_レ是王召見、問_二藺相如_一曰、秦王以_二十五城_一請_レ易_レ寡人之璧、可_レ予不。

相如曰、②秦以_レ城求_レ璧而趙不_レ許、曲在_レ趙。趙予_レ璧而秦不_レ予_二趙城_一、曲在_レ秦。

王曰、誰可_レ使者。相如曰、王必無_レ人、臣願奉_レ璧往使。城入_レ趙而璧留_レ秦、③城不_レ入、臣請完_レ璧歸_レ趙。

秦王坐_二章台_一、見_二相如_一。相如奉_レ璧奏_二秦王_一。秦王大喜、伝_二以_二示_二美人及左右_一。

相如視_二秦王無_レ意償_二趙城_一、乃前曰、④璧有_レ瑕、請指示_二王_一。王授_レ璧。

相如因持_レ璧、卻立倚_レ柱、怒髮上衝_レ冠、曰、⑤大王欲_レ得_レ璧、使_三人斧_レ書至_二趙王_一。趙王悉召_二群臣_一議。

⑥且夫布衣之交、尚不_二相欺_一、況大國乎。

今臣至、大王見_二臣列觀_一、礼節甚倨。臣觀_二大王無_レ意償_二趙王城邑_一。故臣復取_レ璧。

⑦大王必欲_レ急_レ臣、臣頭今与_レ璧俱碎_二於柱_一矣。相如持_二其璧_一、睨_レ柱、欲_二以_二擊_レ柱。

相如度_二秦王特以_レ詐詳為_レ予_二趙城_一、実不_レ可_レ得、⑧乃使_二其從者衣_レ褐、懷_二其璧_一、從_二徑道_一亡、歸_二璧於趙_上。

⑨秦亦不_二以_レ城予_レ趙、趙亦終不_レ予_二秦璧_一。

【書き下し文】

趙の惠文王の時、楚の和氏（くわし）の璧を得たり。秦の昭王之を聞き、人をして趙王に書を遺（おく）らしめ、願はくは十五城を以て璧に易（か）へんと請ふ。

①是（ここ）に於（お）いて王召見し、藺相如に問ひて曰（い）はく、「秦王、十五城を以て寡人（くわじん）の璧に易へんと請ふ。予（あた）ふべきや不（いな）や。」と。

相如曰はく、「②秦城を以て璧を求めて趙許さずんば、曲（きよく）は趙に在り。趙璧を予へて秦趙に城を予へずんば、曲は秦に在り。」と。

王曰はく、「誰か使ひすべき者ぞ。」と。相如曰はく、「王必ず人無くんば、臣願はくは璧を奉じて往きて使ひせん。城趙に入らば璧を秦に留めん。③城入らずんば、臣請ふ、璧を完（まつた）うして趙に帰らん。」と。

秦王章台に坐して、相如を見る。相如璧を奉じて秦王に奏す。秦王大いに喜び、伝へて以て美人（びじん）及び左右に示す。

相如、秦王の趙に城を償（つぐな）ふに意無きを視（み）、乃（すなは）ち前（すす）みて曰はく、「④璧に瑕（き）ず）有り。請ふ王に指示せん。」と。王璧を授（さづ）く。

相如因りて璧を持ち、卻立（きやくりつ）して柱に倚（よ）り、怒髪上りて冠を衝（つ）きて曰はく、「⑤大王璧を得んと欲し、人をして書を発して趙王に至らしむ。趙王悉（ことごと）く群臣を召して議す。

⑥且（か）つ夫（そ）れ布衣（ふい）の交はりすら、尚ほ相欺かず、況（いは）んや大国をや。

今臣至るに、大王臣を列観（れつくわん）に見、礼節甚だ倨（おご）れり。臣大王に趙王の城邑（じやういふ）を償ふに意無きを観る。故に臣復た璧を取れり。

⑦大王必ず臣を急にせんと欲せば、臣の頭（かうべ）今璧と俱（とも）に柱に碎けん。」と。

相如其の璧を持ち、柱を睨（にら）み、以て柱に撃（う）たんと欲す。

相如、秦王の特（た）だ詐（いつは）りて詳（いつは）り趙に城を予ふと為すのみにして、実（じつ）は得べからざるを度（はか）り、⑧乃ち其の従者をして褐（かつ）を衣（ぎ）、其の璧を懐（いだ）き、徑道（けいだう）より亡（に）げ、璧を趙に帰（き）せしむ。

⑨秦も亦（また）城を以て趙に予へず、趙も亦終に秦に璧を予へず。

※「和氏の璧」は、楚の下和（べんか）が見つけたとされる名玉。傍線部の番号は設問に対応しています。本文は頻出箇所を中心に編集しています。

設問

- 傍線部①「是に於いて王召見し」について、次の問いに答えよ。
 - (1) 「是に於いて」の読みをひらがなで答えよ。
 - (2) この「王」とは誰を指すか。漢字で答えよ。
- 傍線部②「秦城を以て璧を求めて趙許さずんば、曲は趙に在り」を現代語訳せよ。
- 本文中の「城不入、臣請完璧帰趙」（傍線部③）について、次の問いに答えよ。
 - (1) この部分を書き下し文に直せ（送り仮名・読み仮名を補うこと）。
 - (2) 「請」はここでどのような意味・用法か。最も適切なものを次から選べ。
ア 相手に許可を求める「どうか～させてください」（請願） イ 相手に行動を要求する「どうか～してください」（依頼） ウ 単なる過去「～した」 エ 禁止「～してはならない」
 - (3) 「臣」とは誰のことか。人物名を漢字で答えよ。
- 傍線部③「璧を完うして趙に帰らん」について、次の問いに答えよ。
 - (1) 「完うす」とはどういうことか。十五字以内で説明せよ。
 - (2) この一文が、後の四字熟語「完璧」のもとになっている。本文に即して、「完璧」の本来の意味として最も適切なものを次から選べ。
ア 欠点が一つもなく、完全であること イ 傷一つない璧（玉）を、無事にもとの持ち主へ持ち帰ること
ウ 大きく立派な宝物を手に入れること エ 約束を必ず守ること
- 傍線部④「璧に瑕有り。請ふ王に指示せん」について、次の問いに答えよ。
 - (1) この発言を相如がした、本当のねらいは何か。簡潔に説明せよ。
 - (2) 「瑕」の読みをひらがなで答えよ。また、この「瑕」は実際に存在したか、しなかったか。
- 傍線部⑤「人をして書を発して趙王に至らしむ」について、次の問いに答えよ。
 - (1) この文に用いられている句法を漢字で答えよ。

○ (2) 「使(しむ)」のここでの意味を答えよ。

○ (3) 全体を現代語訳せよ。

7. 傍線部⑥「且つ夫れ布衣の交はりすら、尚ほ相欺かず、況んや大国をや」について、次の問いに答えよ。

○ (1) 「すら～、況んや～をや」が表す句法の名称を答えよ。

○ (2) この一文を現代語訳せよ。

○ (3) 「布衣」とはどのような身分の人を指すか。簡潔に答えよ。

8. 傍線部⑦「臣の頭今璧と俱に柱に砕けん」について、次の問いに答えよ。

○ (1) この発言で相如は秦王に何を示そうとしたのか。説明せよ。

○ (2) 文末「砕けん」の「ん(む)」の意味として最も適当なものを次から選べ。

ア 推量「～だろう」 イ 意志「～しよう(するつもりだ)」 ウ 勧誘「～しないか」 エ 仮定「もし～ならば」

9. 傍線部⑧「乃ち其の従者をして褐を衣、其の璧を懐き、径道より亡げ、璧を趙に帰せしむ」について、次の問いに答えよ。

○ (1) 「従者をして～帰せしむ」に用いられている句法を答えよ。

○ (2) 「褐を衣」とは、従者にどのような姿をさせたということか。簡潔に答えよ。

○ (3) 「径道より亡げ」とはどういうことか。現代語で説明せよ。

10. 傍線部⑨「秦も亦城を以て趙に予へず、趙も亦終に秦に璧を予へず」について、この結末はどのような状況になったことを示すか。簡潔に説明せよ。

11. 「奉」の読みと意味について、次の問いに答えよ。

○ (1) 「相如璧を奉じて秦王に奏す」の「奉じて」の読みをひらがなで答えよ。

○ (2) ここでの「奉」の意味を答えよ。

12. 「相如、秦王の趙に城を償ふに意無きを視る」について、相如は秦王のどのような態度から「城を渡す気がない」と見抜いたのか。本文に即して二つ挙げよ。

13. 「怒髪上りて冠を衝く」とは、相如のどのような様子を表した表現か。簡潔に説明せよ。また、ここから生まれたとされる四字熟語を漢字で答えよ。

14. 「相如其の璧を持ち、柱を睨み、以て柱に撃たんと欲す」とあるが、相如はなぜこのような態度をとったのか。その意図を説明せよ。

15. 次の語の本文中での読みを、それぞれひらがなで答えよ。

○ (1) 寡人

○ (2) 怒髪

○ (3) 径道

16. 本文全体を通して描かれる藺相如の人物像として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 武力にものを言わせて強引に交渉を進める豪傑 イ 危険な場面でも機転と胆力で主君の利益を守り抜く知略の人 ウ 秦王の権威に屈し、保身を第一に考える臆病な臣下 エ 学問にすぐれ、礼儀作法を何よりも重んじる学者

17. 次の傍線部の「予」について、読みと意味をそれぞれ答えよ。

「予ふべきや不や」

18. 「曲は趙に在り」「曲は秦に在り」の「曲」とはどういう意味か。文脈をふまえて答えよ。
19. この文章の出典について、次の問いに答えよ。
- (1) 出典の書名を漢字で答えよ。
 - (2) (1)の著者名を漢字で答えよ。
 - (3) (1)に用いられている、本紀・列伝などから成る歴史の記述形式を何というか。漢字で答えよ。
20. 『史記』に関する説明として正しいものを、次から二つ選び、記号で答えよ。
- ア 前漢の時代に著された イ 唐の時代に著された ウ 神話・伝説の時代から武帝の時代までを記す エ 日本の歴史を記した書物である オ 編年体で書かれている
21. 藺相如が和氏の璧を無事に持ち帰った話に由来する四字熟語「完璧（帰趙）」について、次の問いに答えよ。
- (1) 現代では「完璧」はどのような意味で使われているか。簡潔に答えよ。
 - (2) 「完璧」を使った短文を一つ作れ。
22. この故事から生まれた、藺相如と廉頗（れんぱ）の和解にまつわる有名な四字熟語に「刎頸（ふんけい）の交はり」がある。これはどのような交友を意味するか。簡潔に説明せよ。
23. 本文の内容に合うものを、次から一つ選び、記号で答えよ。
- ア 秦王ははじめから十五城を趙に与えるつもりで、誠実に交渉した。 イ 相如は璧に偽りの傷があると言って秦王から璧を取り戻し、最終的に従者に命じて璧を趙へ持ち帰らせた。 ウ 相如は秦王の力に恐れをなし、璧を秦に渡して一人で逃げ帰った。 エ 趙王は最後に十五城を手に入れ、璧も秦に渡さずにすんだ。
24. もしあなたが趙王だったとして、秦から「十五城と璧を交換しよう」と持ちかけられたら、応じるべきか応じないべきか。本文で趙の家臣たちが何を心配していたかをふまえて、あなたの考えを五十字程度で書け。